

日本看護学教育学会誌 執筆要領

原稿の内容は日本看護学教育学会の目的である「看護学教育の発展を図り、看護職者による専門的な活動の質向上に寄与すること」にかなったものとする。趣旨に沿わない場合は原稿を受理しない場合がある。

また、本学会の編集スタイルは、原則的に米国心理学会（American Psychological Association, APA）が発行している『Publication Manual of the American Psychological Association, 6th ed.』（2009）／『APA 論文作成マニュアル第2版』（2011）[医学書院]に準拠するが、一部については本会独自のルールを用いる。

I. 投稿の際の書式等について

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフトを使用し、A4版、横書きとする。書式は上下・左右余白ともに30mmとし、1頁40字×40行とする。
- 2) 本文に頁番号および頁ごとに行番号を入れる。
- 3) 原稿は日本語、もしくは英語を用いる。なお、日本語の場合は新かなづかいを用い、文体は「である調」を基本とする。句読点は、日本語では「、」「。」、英語では「,」「.」で統一する。
- 4) 漢字の使用については、原則的に「常用漢字表」に則るが、専門用語に類するものについてはその限りではない。接続詞や副詞の多くと名詞や動詞、助動詞などの一部には「ひらがな書き」が定着していることに配慮する。
[例] 「さらに…」 「ただし…」 「および…」 「または…」 「すぐに…」 「ときどき…」 「…すること」 「…したとき」 「…ている」
- 5) 外来語はカタカナで、外国人名などと日本語訳が定着していない学術用語などは原則として原語で記載する。
- 6) 本文や図表中（文献は除く）で用いられる数字および欧文については、原則として半角文字を使用する。ただし、「二者択一」や「一朝一夕」のような数量を表す意味で用いられているのではないものは漢字を用いる。また、1桁の数字および1文字のみの欧文（例：A施設、B氏、方法X、など）の場合は全角文字とする。さらに、量記号（サンプル数の n や確率の p などの数値すなわち量を表す記号）に対しては、欧文書体のイタリック体（斜体）を使用する。
- 7) 整数部分が0で理論的に1を超えることのない数値は、たとえば、相関係数 r やCronbach's α では「.68」のように小数点以下だけを表現し、縦に揃える場合は小数点の位置で揃える。

II. 見出しについて

- 1) 論文の構成をわかりやすく提示するために見出しを階層化する。見出しの階層は第1階層から第4階層までとする。
- 2) 第1階層は論文タイトルで、見出しに数字やアルファベットを付けない。

- 3) 本文の見出しは、以下に示す第2階層から第4階層までの3つの階層から構成する。見出しに付ける数字・記号、およびピリオドは全角を使用する。

第2階層：I. II. III.	中央揃え
第3階層：1. 2. 3.	左端揃え
第4階層：1) 2) 3)	上位の見出しより1字下げる

- 4) 「はじめに」や「序論」「序説」、または「緒言」および「おわりに」や「結語」、「謝辞」を使用する場合は第2階層ではあるが、本文中では見出し数字・記号は使用せず、単に中央揃えとする。
- 5) 4階層以上になる場合はアルファベットの階層を使用することができる。
- 6) ある階層に下位階層をつくる場合、下位階層の項目は必ず2つ以上の項目をつくる。項目が1つしかない場合には、下位階層の項目とはしない。

Ⅲ. 図表について

- 1) 図（写真も含む）および表は、本文とは別に1枚1点とする。図の場合には、最下段左端に、出現順に「図1」のように通し番号を振り、そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を示す。表の場合には、最上段左端に、出現順に「表1」のように通し番号を振り、そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を示す。
- 2) 図表は、原稿本文とは別にまとめて巻末に添える。図表を原稿に挿入する箇所は、本文原稿の右側余白に図表番号を記入する。
- 3) 表の罫線は必要な横罫線だけにとどめ、縦罫線は使用しない。縦罫線かわりに十分な空白を置く。

[例]

表1 新人教員と中堅教員の課題達成得点

	新人教員		中堅教員		t値
	M	SD	M	SD	
授業展開	5.14	3.67	6.50	4.20	2.06 *
授業研究	2.98	1.05	4.25	0.94	5.42 **
学生指導	5.30	3.54	5.77	3.95	2.08 *

* $p < .05$, ** $p < .01$

Ⅳ. 文献の記載および引用方法について

A. 文献の記載方法

1. 文献の並べ方

- 1) 引用文献は論文の最後にまとめて記載し、見出しは「文献」とする。
- 2) 「文献」リストに記載された文献は本文で必ず引用しなければならない。また、本文で引用された文献は必ず「文献」リストの中に記載されている必要がある。
- 3) 文献は、日本語文献と外国語文献を分けずに、著者（共著の場合には第一著者）の姓によるアルファベット順に並べる。

- 4) 同一著者が単独で発表している文献と、第一著者として発表している共著文献がある場合には、単独発表のものを先にし、次に共著のものを並べる。
- 5) 同一の著者あるいは同一配列の共著者の文献が複数ある場合には、刊行年次によって早いものから順に並べる。
- 6) 同一著者で刊行年次も同じ文献が複数ある場合には、発行年にアルファベットを付し、これらの文献を区別する。なお、本文中の記載においても、同様の扱いとする。

2. 文献の種類による記載方法

a. 雑誌の場合

著者名全員（西暦発行年）．表題．雑誌名，巻(号)，開始ページ-終了ページ．

[例]

看護太郎，教育花子，日本二郎（1998）．日本の看護教育の歴史．日本看護学教育学会誌，2(1)，32-38．

Kango, T., Kyouiku, H., & Nihon, J. (2000). History of nursing education in Japan. *Journal of Japan Academy of Nursing Education*, 5, 132-138.

b. 書籍の場合

著者名（西暦発行年）．書籍名．引用箇所を開始ページ-終了ページ，出版地：出版社名．

[例]

教育太郎（1995）．看護基礎教育入門．23-52，大阪：看護教育出版．

Kyoiku, T. (2000) . *Introduction to Nursing Basic Education*, 23-52, Osaka: Nursing Education Press.

c. 学位論文の場合

著者名（西暦発行年）．論文名．引用箇所を開始ページ-終了ページ，学位論文の位置づけ（出版地：出版社名は不要）

[例]

教育太郎（1998）．看護基礎教育における実習指導者の役割の変化．13-32，日本看護学教育大学大学院看護学研究科博士論文．

d. 翻訳書の場合

原著者名（原著発行年）／訳者名（翻訳書発行年）．翻訳書名（版数）．（pp.引用箇所を開始ページ-終了ページ）．出版地：出版社名．

[例]

Walker, L.O., & Avant, K.C. (2005) / 中木高夫・川崎修一訳（2008）．看護における理論構築の方法．（pp.77-79）．東京：医学書院．

e. 分担執筆の文献で著者と書籍に編者（監修者）が存在する場合

著者名（西暦発行年）．表題．編集者名（編），書籍名（pp.引用箇所を開始ページ-終了

ページ) . 出版地 : 出版社名 .

[例]

教育花子 (1998) . 痛みの看護 . 看護太郎 , 教育花子 (編) , 臨床看護学 II (pp.123-146) .
東京 : 教育学会出版 .

Kyoiku, H. (2008). A nursing approach to pain. In T. Nihon, & H. Kango Editor (Eds.). *Clinical Nursing II* (pp.123-146). Tokyo: Academy of Education Press.

f . 電子雑誌の場合

• DOI がある学術論文

著者名 (出版年) . 論文名 . 誌名 . 巻 (号) , 頁 . doi: xx,xxxxxx (参照 年-月-日)
Author, A. A., & Author, B. B. (Year). Title of article. *Title of Journal*, vol(no), xxx-xxx. doi:
xx,xxxxxx (accessed Year-Month-Day)

• DOI のない学術論文

著者名 (出版年) . 論文名 . 誌名 . 巻 (号) , 頁 . <http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)
Author, A. A., & Author, B. B. (Year). Title of article. *Title of Journal*, vol(no), xxx-xxx.
Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

g . 電子書籍の場合

• DOI がある書籍

著者名 (出版年) . 書籍名 . doi: xx,xxxxxx (参照 年-月-日)
Author, A. A., & Author, B. B. (Year). *Title of book*. doi: xx,xxxxxx (accessed Year-Month-Day)

• DOI のない書籍

著者名 (出版年) . 書籍名 . <http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)
Author, A. A., & Author, B. B. (Year). *Title of book*. Retrieved from <http://www.xxxxxxx>
(accessed Year-Month-Day)

h . 電子書籍の 1 章または一部の場合

• DOI がある書籍

著者名 (出版年) . 章のタイトル . 編集者名 (編) , 書籍名 (pp. xxx-xxx) . 出版社名 .
doi: xx,xxxxxx (参照 年-月-日)
Author, A. A., & Author, B. B. (Year). *Title of chapter*. In C. Editor, & D. Editor (Eds.),
Title of book (pp. xxx-xxx). doi: xxxxxx (accessed Year-Month-Day)

• DOI のない書籍

著者名 (出版年) . 章のタイトル . 編集者名 (編) , 書籍名 (pp. xxx-xxx) . 出版社名 .
<http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)
Author, A. A., & Author, B. B. (Year). *Title of chapter*. In C. Editor, & D. Editor (Eds.),
Title of book (pp. xxx-xxx). Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

i . Web サイトまたは Web ページの場合

著者名 (投稿・掲載の年月日) . Web ページの題名 . Web サイトの名称 . <http://www.xxxxxxx>

(参照 年-月-日)

Author, A. A. (Year, Month, Day). *Title of Web page. Title of Web site.* Retrieved from
http://www.xxxxxxx (accessed Year-Month-Day)

B. 本文中の引用方法

- 1) 本文中の引用箇所には「(著者の姓, 西暦文献発行年, 引用ページ)」を付けて表示する。書籍の場合、引用には常に該当するページを記すが、ページを特定できないとき(本文を要約して引用する場合や文意を説明的に引用する場合など)はこの限りではない。引用が複数頁にまたがる場合は「pp.xxx-xxx」とする。雑誌の場合、ページの表示は不要である。

[例]

- a. 鈴木 (2011) によると「.....は.....である」(p.3)。
 - b. 「.....は.....である」と佐藤は述べている(2009, pp.3-5)。
 - c. 鈴木は、.....は.....である、と主張している(2011, p.3)。
- 2) 2名の著者による単独の文献の場合、その文献が本文に出現するたびに常に両方の著者の姓の間に「・」を付して表記する。外国語文献では、2名の姓を「&」でつなぐ。初出以降に再引用する場合も同様である。

[例]

- a. 鈴木・佐藤(2013)によると「.....は.....である」(p.3)。
 - b. 「.....は.....である」と佐藤・鈴木・黒田は述べている(2011, pp.120-123)。
 - c. 鈴木・佐藤は、.....は.....である、と主張している(2013, p.3)。
 - d. Suzuki & Satoh (2013, p.3) は.....。
- 3) 著者が3、4、5名の場合、文献が初出の時点ですべての著者姓を、間に「・」を付して表記する。外国語文献では、最後の著者姓の前に「&」を入れる。初出以降に再引用する場合は、最初の著者の後ろに「他」を付ける。外国語文献の場合は「et al.」を付ける。例外として、最初の著者1名では論文の区別がつかない場合、区別がつかまで著者姓を列記する。

[例]

- a.であることが明らかにされている(鈴木・佐藤・高橋・田中, 2011)。
 - b.であることが明らかにされている(Johnson, Williams, Brown, Jones, & Smith, 2011)。
- 4) 著者が6名以上の場合、初出・再引用にかかわらず、筆頭著者の姓のみに「他」(欧文の場合は「et al.」)を付す。
 - 5) 複数文献を同一個所で引用した場合には、(鈴木, 2011; 高橋・田中, 2010)というように筆頭著者のアルファベット順に表示する。
 - 6) 同一書籍の異なる頁を複数個所で引用する場合には、本文末の文献リストにおいては単一の文献として頁数を記載せず、それぞれの引用個所において頁数を記載する。

[例]

高橋(2010, pp.23-45)によると...である。また、...であるケースも存在することが明らかにされている(高橋, 2010, pp.150-156)。

- 7) 翻訳書を引用した場合には、原著出版年／翻訳書発行年を表示する。

[例]

Smith & Johnson (2005/2008) によると……

V. 要旨について

- 1) 原著・研究報告として投稿する場合には、400 字程度の和文要旨ならびに 250 語程度の英文要旨を所定の欄に入力する。
- 2) 和文要旨は、〔目的〕、〔方法〕、〔結果〕、〔考察〕の見出しをつけて入力する。
- 3) 英文要旨は、〔Aims〕、〔Methods〕、〔Results〕、〔Conclusions〕の見出しをつけて入力する。間違いがないことを証明するネイティブチェック（英語を母国語とする人によるチェック）を受ける。
- 4) さらに日本語および英語のキーワード 3～5 語を入力する。

VI. 投稿原稿作成時の注意事項

- 1) 投稿原稿の表紙の作成は、所定様式をダウンロードし、必要事項を記入のうえアップロードする。表紙の様式は学会誌の最終項およびホームページの「学会誌 (URL : <http://www.jane-ns.org>)」に掲載されている。
- 2) 著者名や所属機関名、受審した倫理審査委員会名・承認番号、謝辞、著者資格は、投稿時にアップロードする本文原稿中には記載せず、電子投稿システム画面に入力する。なお、論文が採択された後に提出する最終原稿には、これらの情報を明記する。
- 3) 自著を引用する場合は、投稿時に該当箇所（本文中の著者名及び文献リスト中の文献全体）を取り外し（○○、××などに置き換える）、掲載決定後に明示する。
- 4) 投稿論文が研究助成を受けている場合は、助成金名とともにその旨を本文の謝辞等に明記する。
- 5) 投稿論文が修士あるいは博士論文の一部であることを記載する場合は、本文の謝辞等に記載する。

本要項は 2018 年 4 月 1 日作成

附則

2020 年 11 月 19 日一部改正

2021 年 6 月 20 日一部改正